

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科： 国語 科目： 古典A 対象：(第3学年 選択) (2単位)

使用教科書	標準古典A (第一学習社)	使用副教材等	標準古典A 学習課題集 (第一学習社)	
指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数	
一 学 期	<p>【古今著聞集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親しみやすい教材で古文の面白さを知る。 ・古語文法の復習をする。 ・登場人物の心情を読み取る。 <p>【伊勢物語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在原業平の人物像に興味を持つ。 ・「あづさ弓」を読み、和歌に込められた詠者の心情について考える。 ・話の流れに沿って、登場人物の心情をよみとる。 ・歌物語ならではの和歌の調べとともに、修辞技巧を学ぶ。 <p>【推敲】【赤壁之戦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢文に慣れさせ、訓読上のきまりをより正しく理解する。 ・故事成語が現在どのような意味で使われているのかを知る。 ・史書にみられる古代中国人の発想の豊かさを読み取る。 	<p>「文字一つの返し」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し音読することによって、古文の調子・リズムに慣れる。 ・重要語句の意味及び説話内容を理解し、適切に口語訳する。 ・登場人物の行動と心情を読み取る。 <p>・一年次の「芥川」に続き、在原業平に興味を持ちつつ、内容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要語句の意味について習熟する。 ・本文の重要語句を含む部分について適切に口語訳する。 ・登場人物の行動と心情を読み取る。 ・和歌の修辞技法を学び、読解を深める。 <p>・繰り返し音読することによって、漢文の調子・リズムに慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に注意すべき句法について確認・習熟する。 ・故事成語の由来を理解する。 ・これらの寓意によって作者がなにを言おうとしたのかについて考える。 ・登場人物の発言の意図や作戦の巧みさを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・指名音読 ・ノート提出 ・定期考査 	2時間 2時間 4時間
二 学 期	<p>【枕草子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中納言参り給ひて」で、敬語の用法に注意し、登場人物の関係を正確につかむ。 ・「雪のいと高う降りたるを」の登場人物の行動と心理に留意する。 ・漢詩句の知識を共有する定子サロンの雰囲気を理解する。 <p>【源氏物語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長編物語を読んで、話のおもしろさを理解する。 ・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・物語における和歌の役割を考える。 <p>【史記・鴻門之会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い文章を読んで、漢文に親しみを持ち、話の内容を理解する。 ・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・中国における歴史書と歴史の記録について、その特徴を知る。 	<p>「中納言参り給ひて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の敬語の用法を整理し、人物関係を正確にとらえる。 <p>「雪のいと高う降りたるを」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自賛談を書き記した作者の気持ちについて考える。 ・白居易の詩と日本文学の関わりを理解する。 ・『枕草子』について、文学史上の基本的な知識を持つ。 <p>「桐壺」「若紫」「夕顔」「葵」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容を構成や展開に即して理解する。 ・登場人物の行動と心情を読み取る。 ・長編物語の内容のおもしろさを理解する。 ・情景と心情が一体となった描写を読み味わう。 ・『源氏物語』について、文学史上の基本的な知識を持つ。 <p>・繰り返し本文を読み、漢文の調子に慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の歴史的背景について理解を深める。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文を記せる。 ・登場人物の言動を把握し、その理由について読み取る。 ・反語・否定・疑問などの句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・指名音読 ・ノート提出 ・定期考査 	6時間 14時間 6時間
三 学 期	<p>【大鏡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「弓争い」について読み、宮廷文化を垣間見る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 <p>【胡蝶の夢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読を繰り返すことによって、漢文の調子・リズムを理解する。 ・主な文型について理解し、登場人物の心理について考えさせる。 	<p>「弓争い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道長と伊周の心情表現に注意しながら、文意を理解する。 ・二人の心情や言動が対照的に描かれていることを理解する。 <p>「胡蝶の夢」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・哲学的な思考力を身につける。 ・荘子の思想について学び、理解する。 ・反語・使役・強調などの文型に習熟し、文意を的確に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・指名音読 ・ノート提出 ・定期考査 	16時間

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科：地理歴史 科目：日本史A選択 対象：(第3学年 選択者) 単位数：2単位

使用教科書	高等学校 日本史 A 人・くらし・未来 (第一学習社)	使用副教材等	新詳日本史 (浜島書店)
-------	-----------------------------	--------	--------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	<p>○様々な分野を「テーマ史」として扱い、学習したことを踏まえて、日本史の流れを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貨幣・金融史 ・蝦夷地（北海道）史 ・琉球（沖縄）史 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去にどのような貨幣が使われていたのか理解する。 ・様々な資料を活用して、当時の国民がどのように貨幣と向きあっていたのか考察する。 ・様々な資料を読み取り、貨幣に関する法令等の内容・背景・効果を理解する。 ・金融業がどのように発展してきたのか理解する。 ・近現代の金融業について、国内の動向と国際関係の視点から考察する。 ・蝦夷地（北海道）がどのような時代を過ごしてきたのか理解する。 ・本土の人々と蝦夷地（北海道）の人々の交流について様々な資料を活用して考察する。 ・琉球（沖縄）がどのような時代を過ごしてきたのか理解する。 ・本土の人々と琉球（沖縄）の人々の交流について様々な資料を活用して考察する。 ・現代に抱える「沖縄」をテーマにした課題から、様々な資料を活用して、その解決策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 知識理解の達成度 定期考査により判断。 ■ 関心・意欲 授業への参加態度、提出物から判断。 ■ 思考・判断・表現 授業中の発言や、ワークシート、レポートにより判断。 ■ 技能 ワークシートにより判断 	<p>10 時間</p> <p>6 時間</p> <p>10 時間</p>
二 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・女性史 <p>○身近な地域の歴史（江戸時代～近現代）について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墨田区の歴史 地理（東京下町低地・隅田川） 人物（葛飾北斎・歌川広重など） 産業（伝統工芸など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代における女性の地位を様々な資料を活用して考察する。 ・各時代で活躍した女性について理解する。 ・現代に抱える「男女」をテーマにした課題から、様々な資料を活用して、その解決策を考える。 ・学校所在地である墨田区の歴史について、新旧地形図、文献資料、写真、映像教材等を活用して理解する。 ・地域グループごとに主題を設定し、調べ学習を通して地域への理解を深め、地域の将来について展望する。 ・発表に必要な資料やデータを収集し、適切な取舍選択を行い、図やグラフを用いて表現する力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 知識理解の達成度 定期考査により判断。 ■ 関心・意欲 授業への参加態度、提出物から判断。 ■ 思考・判断・表現 授業中の発言や、ワークシート、レポート、発表により判断。 ■ 技能 ワークシートにより判断 	<p>10 時間</p> <p>6 時間</p> <p>10 時間</p>
三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育史 <p>・「テーマ史」（生徒が自分でテーマを設定）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代にける教育について理解する。 ・様々な資料を活用して、当時の教育者の意図や教育の内容などについて考察する。 ・現代に抱える「教育」をテーマにした課題から、様々な資料を活用して、その解決策を考える。 ・各個人が、自分でテーマを決めて、調べ学習を行い、ICT を活用して発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 知識理解の達成度 定期考査により判断。 ■ 関心・意欲 授業への参加態度、提出物から判断。 ■ 思考・判断・表現 授業中の発言や、ワークシートにより判断。 	<p>8 時間</p> <p>12 時間</p>

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科： 数学 科目： 数学Ⅲ 対象：(第__学年 __組～ __組) (第3学年 選択)

使用教科書	高等学校 数学Ⅲ (数研出版)	使用副教材等	基本と演習テーマ 数学Ⅲ (数研出版)
-------	-----------------	--------	---------------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	関数と極限 ・ 分数関数とそのグラフ ・ 無理関数とそのグラフ ・ 逆関数と合成関数 ・ 関数の極限 ・ いろいろな関数と極限 ・ 関数の連続性 微分法 ・ 導関数 ・ 積・商の微分法 ・ 合成関数の微分法 ・ 三角関数の導関数 ・ 対数関数・指数関数の導関数 ・ 高次導関数	分数関数と無理関数のグラフをかくことができるようにする。 逆関数と合成関数の意味を理解させる。 無限級数の和を求めることができるようにする。 関数の極限、連続性について理解させる。	■関心・意欲・態度 授業への参加態度から判断 ■数学的な見方や考え方 授業中の発言から判断 ■表現・処理 提出物から判断 ■知識・理解 提出物から判断	24 時間
		微分可能な2つの関数の商・積の導関数を求めることができるようにする。 合成関数、三角関数の微分について理解させる。 自然対数の底eを導入し、対数関数の導関数について理解させる。 高次導関数について理解させる。		20 時間
二 学 期	微分の応用 ・ 接線の方程式 ・ 平均値の定理 ・ 関数の増減 ・ 関数の極大・極小 ・ 第2次導関数とグラフ ・ 最大・最小 ・ 方程式、不等式への応用 ・ 媒介変数で表された関数の微分 ・ 速度・加速度 ・ 近似式 積分とその応用 ・ 不定積分 ・ 置換積分法 ・ 部分積分法 ・ いろいろな関数の不定積分 ・ 定積分 ・	接線・法線の方程式について理解させる。 平均値の定理について理解させる。 関数の値の変化を調べ、極値を求めることができるようにする。 曲線の凹凸に関する性質について理解させ、グラフの概形をかけるようにする。 速度・加速度について理解させる。 1次近似式を導くことができるようにする。	■関心・意欲・態度 授業への参加態度から判断 ■数学的な見方や考え方 授業中の発言から判断 ■表現・処理 提出物から判断 ■知識・理解 提出物から判断	28 時間
		置換積分法、部分積分法を用いて積分ができるようにする。		16 時間
三 学 期	・ 定積分で表された関数 ・ 面積 ・ 区分求積法	いろいろな関数のグラフや媒介変数表示された曲線で囲まれた図形の面積を求めることができるようにする。 区分求積法について理解させる。	■関心・意欲・態度 授業への参加態度から判断 ■数学的な見方や考え方 授業中の発言から判断 ■表現・処理 提出物から判断 ■知識・理解 提出物から判断	10 時間

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科： 数学 科目： 就職数学 対象：(第 学年 組～ 組) (第3学年 選択) (2単位)

使用教科書	最新 数学 I ・ 数学 A(数研出版)	使用副教材等	改訂版 ベストステップ 数学 I ・ A(中部日本教育文化会)
-------	----------------------	--------	---------------------------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実数の計算 (1) ・ 実数の計算 (2) ・ 比と歩合 ・ 整式 ・ 乗法公式 ・ 因数分解 ・ 関数とグラフ ・ 2次関数のグラフ ・ 2次関数の最大・最小 ・ 1次方程式 	<p>四則演算・指数法則・分数と小数の混合算が正確にできるようにさせる。 平方根を含む計算が正確にできるようにさせる。 濃度・速度、原価・定価・売価をとおして、比と歩合を理解させる。 基本的な整式の計算が正確にできるようにさせる。 見通しをもって様々な展開ができるようにする。</p> <p>様々な因数分解ができるようにする。 1次関数について、グラフ・最大値・最小値を理解させる。 2次関数のグラフをかくことができるようにする。 2次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 1次方程式の解を求めることができるようにする。</p>	<p>■関心・意欲・態度 授業への参加態度から判断</p> <p>■数学的な見方や考え方 授業中の発言から判断</p> <p>■表現・処理 確認テストから判断</p> <p>■知識・理解 確認テストから判断</p>	10 時間
		<p>連立方程式の解を求めることができるようにする。 2次方程式の解を求めることができるようにする。 1次不等式・2次不等式の解を求めることができるようにする。 連立不等式の解を求めることができるようにする。 三角比の定義について理解させる。 三角方程式の解を求めることができるようにする。 正弦定理・余弦定理について理解させる。</p> <p>様々な角の大きさや辺の長さを求めることができるようにさせる。 様々な図形の面積や体積を求めることができるようにさせる。 様々な文章問題を求めることができるようにさせる。 集合と要素の個数について、和の法則や積の法則を利用して求めることができるようにする。 順列について理解させる。 組合せについて理解させる。 様々な事象の起こる確率を求めることができるようにさせる。</p>	<p>■関心・意欲・態度 授業への参加態度から判断</p> <p>■数学的な見方や考え方 授業中の発言から判断</p> <p>■表現・処理 確認テストから判断</p> <p>■知識・理解 確認テストから判断</p>	12 時間
二 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連立方程式 ・ 2次方程式 ・ 不等式 ・ 連立不等式 ・ 図形と計量 (1) ・ 図形と計量 (2) ・ 平面図形 ・ 面積・体積 ・ 文章問題 ・ 集合と場合の数 ・ 順列 ・ 組合せ ・ 確率 	<p>連立方程式の解を求めることができるようにする。 2次方程式の解を求めることができるようにする。 1次不等式・2次不等式の解を求めることができるようにする。 連立不等式の解を求めることができるようにする。 三角比の定義について理解させる。 三角方程式の解を求めることができるようにする。 正弦定理・余弦定理について理解させる。</p> <p>様々な角の大きさや辺の長さを求めることができるようにさせる。 様々な図形の面積や体積を求めることができるようにさせる。 様々な文章問題を求めることができるようにさせる。 集合と要素の個数について、和の法則や積の法則を利用して求めることができるようにする。 順列について理解させる。 組合せについて理解させる。 様々な事象の起こる確率を求めることができるようにさせる。</p>	<p>■関心・意欲・態度 授業への参加態度から判断</p> <p>■数学的な見方や考え方 授業中の発言から判断</p> <p>■表現・処理 確認テストから判断</p> <p>■知識・理解 確認テストから判断</p>	12 時間
三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合問題 	<p>これまでの内容を総合問題に利用し、問題解決に到達させる。</p>	<p>■関心・意欲・態度 授業への参加態度から判断</p> <p>■数学的な見方や考え方 授業中の発言から判断</p> <p>■表現・処理 確認テストから判断</p> <p>■知識・理解 確認テストから判断</p>	6 時間

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科： 数学 科目： 進学数学 対象：(第 学年 組～ 組) (第3学年 選択) (2単位)

使用教科書	最新 数学 I ・ 数学 A(数研出版)	使用副教材等	改訂新版 チェックノート 数学 I +A(数研出版)
-------	----------------------	--------	----------------------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 展開の公式 因数分解 根号を含む計算 1次不等式 関数とグラフ 2次関数のグラフ 	<p>展開の公式を利用し、整式の乗法ができるようにする。 因数分解の公式を利用し、因数分解ができるようにする。 根号を含む計算を理解し、計算できるようにする。 1次不等式の解を求めることができるようにする。 1次関数について、グラフ・最大値・最小値を理解させる。 2次関数のグラフをかくことができるようにする。</p>	<p>■関心・意欲・態度 授業への参加態度から判断</p> <p>■数学的な見方や考え方 授業中の発言から判断</p> <p>■表現・処理 提出物から判断</p> <p>■知識・理解 提出物から判断</p>	10 時間
	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数の最大・最小 2次関数の決定 2次方程式 グラフと2次方程式 2次不等式の解法 連立不等式 	<p>2次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 様々な条件から2次関数を決定することができるようにする。 2次方程式の解を求めることができるようにする。 2次関数のグラフと2次方程式の関係を理解させる。 2次不等式の解を求めることができるようにする。 連立不等式の解を求めることができるようにする。</p>		10 時間
二 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 三角比 三角比の相互関係 正弦定理・余弦定理 三角形の面積 集合と命題・要素の個数 	<p>三角比の定義について理解させる。 三角比の相互関係を理解させる。 正弦定理・余弦定理について理解させる。 三角比の面積を求めることができるようにする。 集合の表し方と要素の個数について理解させる。</p>	<p>■関心・意欲・態度 授業への参加態度から判断</p> <p>■数学的な見方や考え方 授業中の発言から判断</p> <p>■表現・処理 提出物から判断</p> <p>■知識・理解 提出物から判断</p>	10 時間
	<ul style="list-style-type: none"> 場合の数 順列 組合せ 事象と確率 独立試行の確率 反復試行の確率 条件付確率 	<p>場合の数について理解させる。 順列について理解させる。 組合せについて理解させる。 様々な事象の起こる確率を求めることができるようにする。 独立試行の確率を求めることができるようにする。 反復試行の確率を求めることができるようにする。 条件付確率を求めることができるようにする。</p>		12 時間
三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 角の二等分線と三角形の内心 三角形の外心・重心 チェバ・メネラウスの定理 円に内接する四角形 円と直線 方べきの定理 約数と倍数 ユークリッドの互除法 1次不定方程式 	<p>角の二等分線と三角形の内心の性質を理解させる。 三角形の外心・重心の性質を理解させる。 チェバ・メネラウスの定理を理解させる。 円に内接する四角形の性質を理解させる。 円と直線の性質を理解させる。 方べきの定理を利用し、線分の長さを求めることができるようにする。 約数と倍数の性質を理解させる。 ユークリッドの互除法を理解させる。 1次不定方程式の解を求められるようにする。</p>	<p>■関心・意欲・態度 授業への参加態度から判断</p> <p>■数学的な見方や考え方 授業中の発言から判断</p> <p>■表現・処理 提出物から判断</p> <p>■知識・理解 提出物から判断</p>	8 時間

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科： 数学 科目： 数学B 対象：(第3学年 選択)

使用教科書	高等学校 数学 B(数研出版)	使用副教材等	基本と演習テーマ 数学 B(数研出版)
-------	-----------------	--------	---------------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	数列 等差数列の一般項 等差数列の和 等比数列の一般項 等比数列の和 階差数列と数列の和 Σ の計算 漸化式 数学的帰納法	数列の概念及び用語の意味、表し方を理解させる。 等差数列や等比数列の一般項や和を求めさせる。 Σ の公式を使って計算ができるようにする。 漸化式を解くことができるようにする。 数学的帰納法の考え方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ■関心・意欲・態度 授業への参加態度から判断 ■数学的な見方や考え方 授業中の発言から判断 ■表現・処理 提出物から判断 ■知識・理解 提出物から判断 	7 時間
一 学 期	平面上のベクトル ベクトルの加法・減法・実数倍 ベクトルの成分・内積 位置ベクトル ベクトル方程式	平面上のベクトルの考えを理解させる。 ベクトルの加法・減法について理解させる。 ベクトルの内積の性質を理解させる。 ベクトルの平行・垂直を利用できるようにする。 位置ベクトルを利用して問題を解くことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ■関心・意欲・態度 授業への参加態度から判断 ■数学的な見方や考え方 授業中の発言から判断 ■表現・処理 提出物から判断 ■知識・理解 提出物から判断 	22 時間
三 学 期	空間におけるベクトル 空間座標 空間のベクトル ベクトルの内積 位置ベクトルと空間ベクトル 球の方程式	空間座標を理解させる。 空間のベクトルの考えを理解させる。 空間ベクトルで内積の性質を理解させる。 位置ベクトルを利用して問題を解くことができるようにする。 球の方程式を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ■関心・意欲・態度 授業への参加態度から判断 ■数学的な見方や考え方 授業中の発言から判断 ■表現・処理 提出物から判断 ■知識・理解 提出物から判断 	4 時間

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科： 芸術 科目： 音楽理論と実技基礎 対象：(第3 学年 A組～ F組) (第3学年 選択) 2単位

使用教科書	自校制作	使用副教材等	
-------	------	--------	--

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	<p>★ 鍵盤楽器に挑戦しよう</p> <p>キーボード奏 ピアノ演奏</p> <p>個別指導 一斉指導</p> <p>幼児教育の実践に役立つ実技</p> <p>基礎的な楽典の学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保育士、幼稚園教諭に必要な実技技能の習得を目指す さまざまな伴奏技法を身につけ、伴奏しながら歌えるようにする <ul style="list-style-type: none"> キーボード奏 ピアノ演奏 <p>楽譜読法の学習 基礎練習の充実</p> <p>片手でメロディーを弾いてみよう 両手でメロディーを弾いてみよう 全調スケール練習を通して運指がなめらかになる 全調アルペジオ練習を通して運指がなめらかになる</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌唱 弾き歌い 読譜法 音階と階名 <p>歌唱表現の広がりを経験しよう 幼児歌曲集の歌に取り組む 合唱曲に親しむ</p>	<p>関心 意欲 態度</p> <p>芸術的な感受や表現の工夫</p> <p>創造的な表現の技能</p> <p>鑑賞の能力</p> <p>実技テスト実施</p>	28時間
二 学 期	<p>★ 弾き歌いに挑戦しよう</p> <p>キーボード奏 ピアノ演奏</p> <p>幼児教育の授業展開のコツ</p> <p>歌唱法</p>	<ul style="list-style-type: none"> キーボード奏 ピアノ演奏 <p>楽譜読法の上達 基礎練習の発展</p> <p>両手でメロディーを弾く 歌を歌いながら弾く コードネームに合わせて左手和音伴奏を把握できるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌唱 弾き歌い <p>幼児の個々の興味や能力に応じて生徒が主体的・意欲的に活動を導くことができるようにする</p>	<p>関心 意欲 態度</p> <p>芸術的な感受や表現の工夫</p> <p>創造的な表現の技能</p> <p>鑑賞の能力</p> <p>実技テスト実施</p>	28時間
三 学 期	<p>★ ピアノ実技</p> <p>まとめ</p> <p>発表会実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな伴奏パターン技法を身につける 弾き歌いできる曲数を増やす 楽曲の種類や演奏形態について知る 曲調、テンポによってさまざまな伴奏アレンジができるようにする <p>幼児の興味 関心を高めるために魅力ある授業展開ができる技能を身につけたか</p>	<p>関心 意欲 態度</p> <p>実技テスト実施</p> <p>課題曲鑑賞会</p>	14時間

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科： 外国語 科目： 英語表現 I 対象：(第3学年 A組～ F組)(第3学年 選択) 2単位

使用教科書	Vivid English Expression I (第一学習社)	使用副教材等	
-------	------------------------------------	--------	--

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	<p>オリエンテーション</p> <p>Lesson 1 : Hello, Everyone! 肯定文・否定文 (be 動詞・一般動詞)</p> <p>Lesson 2 : She Is from Canada 疑問文・命令文</p> <p>Lesson 3 : My School Life S+V, S+V+C</p> <p>Lesson 4 : We Enjoy Club Activities S+V+O, S+V+O1+O2</p> <p>Lesson 5 : My Hobby S+V+O+C, There is(are)...</p> <p>期末考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ be 動詞、一般動詞を使った肯定文、否定文を作ることができる。 ・ be 動詞、一般動詞を正しく使い分けすることができる。 ・ 基礎的な文法事項を用い、英語で自己紹介をすることができる。 ・ be 動詞と一般動詞を使い分け、正しく疑問文を作ることができる。 ・ 疑問文を作り、相手に質問することができる。 ・ 語の働きを理解し、文型を理解することができる。 ・ 文型を用い、正しい英文を作ることができる。 ・ 自分の学校生活について、英語で相手に紹介することができる。 ・ 語の働きを理解し、文型を理解することができる。 ・ 文型を用い、正しい英文を作ることができる。 ・ 自分の部活動について、英語で相手に紹介することができる。 ・ 自分の趣味や余暇の過ごし方について、英語で発表することができる。 ・ 既習事項の復習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の活動 ・ 発表 ・ ノート ・ 提出物 ・ 英作文 ・ 単語テスト 	<p>1 4時間</p> <p>1 4時間</p>
二 学 期	<p>Lesson 6 : My Trip to Australia 現在形・現在進行形 過去形・過去進行形</p> <p>Lesson 7 : Today's Weather Forecast will, be going to, 未来を表す現在形・ 現在進行形</p> <p>Lesson 8 : Let's Have a Party! 現在完了形 (完了・結果・経験・継続)</p> <p>Lesson 9 : Let's Enjoy Cooking! can, may, must, have to</p> <p>Lesson 6 : My Trip to Australia 現在形・現在進行形 過去形・過去進行形</p> <p>Lesson 7 : Today's Weather Forecast will, be going to, 未来を表す現在形・ 現在進行形</p> <p>Lesson 8 : Let's Have a Party! 現在完了形 (完了・結果・経験・継続)</p> <p>Lesson 9 : Let's Enjoy Cooking! can, may, must, have to</p> <p>期末考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時制を理解し、正しく英文を作ることができる。 ・ 不規則変化動詞を正しく活用することができる。 ・ オーストラリアについて調べ学習を行い、英語で紹介することができる。 ・ 未来を表す表現を理解し、正しく英文を作ることができる。 ・ 未来を表す表現を正しく使い分けすることができる。 ・ 未来を表す表現を用い、英語で週末の予定について表現することができる。 ・ 現在完了形を正しく理解し、英文を作ることができる。 ・ 現在完了形を用い、パーティーの計画について英語で表現することができる。 ・ 助動詞を用い、正しく英文を作ることができる。 ・ 料理の作り方を英語で説明することができる。 ・ 時制を理解し、正しく英文を作ることができる。 ・ 不規則変化動詞を正しく活用することができる。 ・ オーストラリアについて調べ学習を行い、英語で紹介することができる。 ・ 未来を表す表現を理解し、正しく英文を作ることができる。 ・ 未来を表す表現を正しく使い分けすることができる。 ・ 未来を表す表現を用い、英語で週末の予定について表現することができる。 ・ 現在完了形を正しく理解し、英文を作ることができる。 ・ 現在完了形を用い、パーティーの計画について英語で表現することができる。 ・ 助動詞を用い、正しく英文を作ることができる。 ・ 料理の作り方を英語で説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の活動 ・ 発表 ・ ノート ・ 提出物 ・ 英作文 ・ 単語テスト ・ 復習テスト 	<p>1 4時間</p> <p>1 4時間</p>
三 学 期	<p>Lesson 10 : What's the Matter? should, Will you~?, Shall I(we)~?</p> <p>Lesson 11 : A Great Ballpark 受動態 (現在・過去・未来)</p> <p>Lesson 12 : I Like Movies by 以外の前置詞を用いる受動態・感情 を表す受動態の表現</p> <p>Lesson 13 : Online Information to 不定詞 (名詞用法)、It is...to~</p> <p>学年末考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 助動詞を用い、正しく英文を作ることができる。 ・ 助動詞を用い、「健康維持のためにすべきこと」について英語で発表することができる。 ・ 受動態を理解し、正しく英文を作ることができる。 ・ 好きなスポーツについて、理由を含め、英語で説明することができる。 ・ 受動態の慣用表現を理解し、正しく用いることができる。 ・ 好きな映画について、理由を含め、英語で説明することができる。 ・ 不定詞の名詞的用法を用い、正しく英文を作ることができる。 ・ 「インターネットを使ってする好きなこと」について英語で説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の活動 ・ 発表 ・ ノート ・ 提出物 ・ 英作文 ・ 単語テスト ・ 復習テスト 	<p>1 4時間</p>

令和3年度 年間授業計画

都立 橋 高等学校

教科：家庭 科目：子どもの発達と保育 対象：(第3学年 A組～F組) (第3学年 選択) 2単位

使用教科書	子どもの発達と保育 新訂版 (実教出版)	使用副教材等	
-------	----------------------	--------	--

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
1 学期	発達と乳幼児期の意義 子どもの発達 乳幼児期の特徴 胎児の発育・発達 乳幼児の身体的特徴 乳幼児の生理的特徴 発育の評価	<ul style="list-style-type: none"> 人間の発達に関心を持ち、乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを理解する。 胎児の発育について理解し、生命誕生に関わる母体環境の重要性を知る。 乳幼児の身体発育の特徴と傾向を理解する。 乳幼児の生理的特徴を学び、養護の重要性を考える。 発育の評価方法を学び、さらに乳幼児期は発育の個人差が大きいことを理解する。 	<p>関心・意欲・態度 授業への参加態度から評価する。</p> <p>思考・判断・表現 各種問題について自分なりに考え、意見を持つことができるかを評価する。</p> <p>技能 造形実習の作品で評価する。</p>	8時間
	近隣の保育施設での保育実習	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児との触れ合いを通して、乳幼児の心身の特徴、遊びの様子、発達の段階、保育園での生活等を知る。 	<p>知識・理解 小テストにて授業内容を理解できているかどうかを評価する。</p>	8時間
2 学期	乳幼児期の生活 生活と健康 栄養と食事 食習慣の形成 衣生活と育児用品 生活と遊び 遊びの援助	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の生活の特徴を学び、健康を保持増進し、順調な成長を促す上で、発育・発達に応じた養護が必要なことを理解する。 乳幼児の食生活は発育や発達に及ぼす影響が大きいことを学習し、母乳栄養や離乳食の重要性を理解する。 乳幼児の衣服や寝具について、身体的特徴を踏まえ、何を選択したら良いか理解する。 	<p>関心・意欲・態度 授業への参加態度から評価する</p> <p>思考・判断・表現 各種問題について自分なりに考え、意見を持つことができるかを評価する。</p> <p>技能 造形実習の作品で評価する。</p>	14時間
	近隣の保育施設での保育実習	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児との触れ合いを通して、乳幼児の心身の特徴、遊びの様子、発達の段階、保育園での生活等を知る。 	<p>知識・理解 小テストにて授業内容を理解できているかどうかを評価する。</p>	18時間
3 学期	子どもの福祉 児童福祉の理念 児童福祉に関する法律 児童福祉のための機関・施設	<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉の理念や法律、制度について学び、単に保護するのみではなく、次代を担う児童の健全育成を目的としていることを理解する。 児童相談所などの児童福祉機関や施設の種類と目的を学び、児童と家族に対する社会的援助について理解する。 	<p>関心・意欲・態度 授業への参加態度から評価する</p> <p>思考・判断・表現 各種問題について自分なりに考え、意見を持つことができるかを評価する。</p> <p>技能 造形実習の作品で評価する。</p>	10時間
	近隣の保育施設での保育実習	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児との触れ合いを通して、乳幼児の心身の特徴、遊びの様子、発達の段階、保育園での生活等を知る。 	<p>知識・理解 小テストにて授業内容を理解できているかどうかを評価する。</p>	4時間

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科：家庭 科目：フードデザイン 対象：(第3学年 A組～F組) (第3学年 選択) 2単位

使用教科書	フードデザイン cooking&arrangement (教育図書)	使用副教材等	新版 基礎から学ぶビジュアルクッキング (教育図書)
-------	------------------------------------	--------	----------------------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 健康と食生活 <ul style="list-style-type: none"> 食事の意義と役割 食を取り巻く現状 栄養素と食品 <ul style="list-style-type: none"> 栄養素のはたらき 健康に必要な栄養素 食品の特徴 食品の選択と取り扱い 調理と献立 <ul style="list-style-type: none"> 調理の基本 調理実習 <ol style="list-style-type: none"> ① 日常食・和風料理 ② 日常食・洋風料理 ③ 日常食・中国料理 	<ul style="list-style-type: none"> 食事の意義と役割について、健康の保持増進を図ると同時に、人間関係の円滑化などの精神的な役割や文化的な役割を果たしていることを理解させる。 栄養状態、食料事情、食の安全及び環境とのかかわりなど、我が国の食を取り巻く現状について把握させる。 日本人の食事摂取基準から、食生活と生活習慣病のかかわり、各栄養素を多く含む食品、効率的に利用するための調理法などを理解させる。 日常よく使用される食品の特徴、調理上の性質、調理による成分の変化などについて理解させる。 安全性、栄養、嗜好、心身の健康、文化の伝承などの面から調理の目的を理解させる。 日常食、行事食、供応食などの調理に必要な知識と技術を習得させる。 	<p>関心・意欲・態度 授業への取り組み姿勢 ワークシートへの記入状況</p> <p>思考・判断・表現 ワークシートへの記入状況 授業中の発言等</p> <p>技能 調理技術 実習記録のまとめ方</p> <p>知識・理解 小テスト及び実習記録への記入状況、</p>	4時間
			8時間	
			12時間	
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 調理と献立 <ul style="list-style-type: none"> ライフステージと食事計画 献立作成 <ol style="list-style-type: none"> ① 日常食・和風献立 ② 日常食・洋風献立 ③ 日常食・中国料理献立 調理実習 <ol style="list-style-type: none"> ① 行事食 ② 様式別献立 テーブルコーディネート <ul style="list-style-type: none"> 様式別の献立と調理・食卓作法 	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児期から高齢期までのライフステージごとの栄養の特徴、食生活上の留意事項、調理法の工夫などについて理解させる。 料理様式別に季節や行事、対象などの条件を考慮し、それにふさわしいテーマを設定するなど、目的に応じた献立作成ができるようにする。 日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理様式について、料理の特徴や献立構成を理解させる。 食品を適切に取り扱い、主な調理操作を習得することにより、効率よくおいしくきれいに作ることができるようにする。 食事を楽しむためには、食べる人の五感を満足させ、会話のはずむ食卓づくりが大切であることを理解させる。 テーブルセッティングについては、食器の種類や特徴、盛り付け方など料理に応じた適切な選択ができるようにする。 	<p>関心・意欲・態度 授業への取り組み姿勢 ワークシートへの記入状況</p> <p>思考・判断・表現 ワークシートへの記入状況 授業中の発言等</p> <p>技能 調理技術 実習記録のまとめ方</p> <p>知識・理解 小テスト及び実習記録への記入状況</p>	24時間
			4時間	
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな食生活をつくる <ul style="list-style-type: none"> 食育の意義 食育の推進 調理と献立 <ul style="list-style-type: none"> 調理実習 <ol style="list-style-type: none"> ① 行事食 ② テーブルマナー 	<ul style="list-style-type: none"> 食育基本法の趣旨を理解させ、食育の重要性について認識させる。 家庭や学校に及び地域における食生活上の問題点や課題を把握し、その課題を解決するための実践活動に積極的に取り組むことができるようにする。 日常の食生活に加え、行事食、地域の伝統食や郷土食など食事の文化的な意義について考えさせ、献立作成と調理ができるようにする。 各様式別の食卓構成を理解させ、食卓作法、供応に伴うマナーについて実践できるようにする。 	<p>関心・意欲・態度 授業への取り組み姿勢 ワークシートへの記入状況</p> <p>思考・判断・表現 ワークシートへの記入状況 授業中の発言等</p> <p>技能 調理技術 実習記録のまとめ方</p> <p>知識・理解 小テスト及び実習記録への記入状況</p>	8時間
			10時間	

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科： 商業 科目： 広告と販売促進 対象：(第3学年 A組～ E組) (第3学年 II 群選択)

使用教科書	『広告と販売促進』実教出版	使用副教材等	広告と販売促進 問題集 実教出版
-------	---------------	--------	------------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	1. 販売促進の概要 2. 消費者行動の理解 3. 販売促進の戦略と具体的活動 4. 広告の概要 5. 広告計画の手順と内容 6. 広告計画の立案と広告作成 (実習)	1. ① 販売促進とは ② 販売促進と消費者ニーズ ③ 販売促進とブランド ④ 販売促進の新しい展開 2. ① 説得と態度 ② 効果的な説得 ③ 購買課程 3. ① 販売促進の戦略 ② セールスプロモーション 4. ① 広告とは ② 広告の種類、機能 5. ① 広告計画と IMC ② 状況分析 ③ 広告コンセプト ④ 広告表現の決定、広告作成の手順 ⑤ メディアの選択、メディアプラン ⑥ 広告効果測定 6. ① 学校紹介、文化祭等を題材とした広告作成実習	提出物、課題、授業態度など総合的に判断し評価する。 定期考査 (期末考査)	26
二 学 期	1. 広報の概要 2. 広報の具体的活動 3. 効果的な広報 4. 店舗の立地 5. 立地分析 (実習) 6. 店舗の設計 7. 商品の棚割と陳列 8. 店舗分析 (実習) 9. POP 広告の制作 (実習)	1. ① 広報とは (役割、種類、仕事、組織) 2. ① 商品広報、企業広報 3. ① 効果的な広報の考え方、広報の方法 4. ① 店舗立地とは ② 立地の選定条件 5. ① 実際にある (自宅や学校の近所の) 店舗や商圈を分析し、様々な資料を作成し店舗立地の実際を各自分析、発表する。 6. ① 店舗設計とは (店舗の企画、レイアウト) 7. ① 棚割の方法 ② 陳列の方法 8. ① よく利用する店舗を題材に、店舗レイアウトや棚割、陳列について分析、発表する。 9. ① POP 広告の1つであるプライスカードを作成する。	提出物、課題、授業態度など総合的に判断し評価する。 定期考査 (期末考査)	29
三 学 期	1. 新しい販売促進 2. 販売促進の規制 3. 販売促進の課題 4. 現状と近未来における販売促進に関する考察 (実習)	1. ① 消費者ニーズに応じた販売促進 ② 新しいメディアによる販売促進 ③ 新しい方法による販売促進 2. ① 規制の意義と種類 ② 法規制の具体的内容 3. ① 消費者対応の重要性 ② 法律および制度に基づいた消費者対応 ③ 自主性に基づいた消費者対応 4. ① 1年間学んだ内容をもとに、販売促進の現状と、近未来における販売促進の在り方について考察する。	提出物、課題、授業態度など総合的に判断し評価する。	10

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科：商業 科目：財務会計Ⅰ 対象：(第__学年 __組～ __組) (第3学年 選択)

使用教科書	新財務会計 (実教出版)	使用副教材等	会計問題集 (全商1級 会計)
-------	--------------	--------	-----------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一学期	1 企業と会計 1 会計の意味 2 会計公準 2 株式会社の会計の基礎 1 設立・開業・株式発行 2 社債の発行、社債利息と処理 3 株式会社の税金 3 貸借対照表 4 流動資産 1 棚卸資産の取得原価と費用配分の法則 2 棚卸資産の期末処理 5 固定資産 1 有形固定資産の期末評価 2 資本的支出と収益的支出 3 固定資産の除却と買い換え 4 無形固定資産の取得原価と期末評価 5 投資有価証券の期末評価 6 子会社株式・関連会社株式の期末評価 6 繰延資産 7 流動負債 8 固定負債 9 純資産の意味と分類 1 純資産の意味 2 株主資本の区分 10 資本金 1 株式会社の資本金、資本剰余金、資本準備金、その他資本剰余金 2 会社の合併 11 利益準備金 12 貸借対照表の作成 1 棚卸法と誘導法 2 貸借対照表の作成に関する原則 3 貸借対照表に関する注記	1 企業会計の意味と目的を理解させる。 企業会計の発達歴史について、その概略を明らかにする。 2 株式会社の設立および開業時における取引の記帳方法を理解させる。 株式を発行して、資本金を増加させたときの記帳方法を理解させる。 株式会社で純利益または純損失が生じたときの記帳方法を理解させる。 剰余金の配当と処分の記帳方法を理解させる。 社債の発行・利払い・償還の記帳方法を理解させる。 株式会社に課せられる税金の記帳方法を理解させる。 3 貸借対照表の役割や区分・表示・様式など、その概略について理解させる。 4 資産の意味・分類を理解させる。 資産評価の意味・基準を明らかにし、その重要性を理解させる。 当座資産の意味と種類を明らかにする。 現金・当座預金・受取手形・売掛金・有価証券の評価と記帳方法について理解させる。 棚卸資産の意味と種類を明らかにする。棚卸資産の払出価額と期末棚卸高の計算方法を理解させる。 商品評価損・棚卸減耗費の意味とその処理法および記帳法を習熟させる。 売価還元原価法を理解させる。 その他の流動資産の意味と種類を明らかにし、その記帳に習熟させる。 5 有形固定資産の意味・種類を明らかにし、取得原価の計算について理解させる。 資本的支出と収益的支出の意味を理解させる。 減価償却の意味を明らかにし、計算方法に習熟させる。 有形固定資産の期末評価を理解させる。 固定資産の除却と買い換の記帳方法に習熟させる。 無形固定資産の意味と種類を明らかにする。 「のれん」に関する計算と記帳に習熟させる。 無形固定資産の期末評価について理解させる。 投資その他の資産の意味と種類を明らかにする。 投資有価証券の期末評価について理解させ、その記帳に習熟させる。 6 繰延資産の意味を明らかにする。 開発費の処理方法について習熟させる。 7 流動負債の種類を明らかにする。 引当金について理解をはかる。 保証債務の記帳法を理解させる。 8 負債の意味と分類を明らかにし、分類基準を理解させる。 固定負債の意味を明らかにし、その記帳に習熟させる。 減債基金の意味とその設定方法および記帳のしかたを理解させる。 偶発債務の意味とその記帳法を理解させる。 9 純資産の意味と分類を明らかにする。 株主資本の区分の概要を理解させる。 10 株式会社の資本金について理解させる。 資本金の増加・減少の処理方法に習熟させる。 11 資本剰余金の意味と分類を明らかにする。 資本準備金とその他資本剰余金に関する処理方法に習熟させる。 合併の意味と記帳法に習熟させる。 12 利益剰余金の意味と分類を明らかにする。 利益準備金、任意積立金に関する基本的な記帳法を理解させる。 剰余金の配当の意味と記帳法について理解させる。 棚卸法と誘導法を理解させる。 貸借対照表上の原則や注記などについて理解させる。 貸借対照表の作成について、会社計算規則による場合を中心に習熟させる。	・定期考査 (中間考査 および期末考査) ・検定試験結果	1→2 2→3 3→3 4→7 5→7 6→4 7→4 8→4 9→4 10→4 11→4 12→6

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
二 学 期	13 損益計算書のあらまし	13 損益計算書の役割・区分・様式など、その概略を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（中間考査 および期末考査） ・検定試験結果 	13→4
	14 営業収益・営業費用	14 営業収益を計上する基準について理解させ、記帳や計算に習熟させる。 販売費および一般管理費について整理する。		14→8
	15 営業外収益・営業外費用	15 経常利益・経常損失の意味を明らかにする。		15→6
	16 特別利益、特別損失	16 損益計算書の税引前当期純利益以降の表示について理解させる。		16→6
	17 損益計算書の作成 1 損益計算書の作成に関する原則 2 損益計算書に関する注記	17 損益計算書作成上の原則や注記などを理解させる。 損益計算書の作成について、会社計算規則による場合を中心に習熟させる。		17→10
	18 その他の財務諸表 1 株主資本等変動計算書 2 注記表、付属明細書	18 株主資本等変動計算書の作成について理解させる。 注記表、付属明細書の記載内容を明らかにする。		18→8
	19 企業会計制度と会計法規 1 企業会計制度 2 会計法規 3 企業会計原則の構造 4 財務諸表の種類	19 企業会計制度の意味と会計法規の必要性を理解させる。 企業会計に関する法規の種類と内容について、その概略を理解させる。 企業会計原則の役割と内容を明らかにし、一般原則の内容について理解させる。 財務諸表の種類を明らかにする。		19→8
	20 財務諸表のディスクロージャーと 監査	20 企業経営の社会的責任とその意味を理解させる。 監査の意味と種類を理解させる。		20→4
	21 財務諸表分析 1 関係比率による分析 2 実数法による分析	21 財務諸表分析の意味・方法を明らかにする。 関係比率法、実数法による分析の種類を明らかにし、それぞれの計算方法について理解させる。		21→12
	22 連結財務諸表 1 企業グループと連結財務諸表 2 親会社と子会社 3 連結財務諸表の重要性	22 連結財務諸表の意味や目的を明らかにし、連結財務諸表の概略を理解させる。 親会社と子会社の意味を理解させる。		21→6
23 総合演習	23 総合演習問題に取り組み、既習事項について理解を定着させるとともに、応用力をつけさせる。	22→38		
三 学 期	24 1・2学期の復習 総合問題	24 総合演習問題に取り組み、既習事項について理解を定着させるとともに、応用力をつけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（卒業考査） ・検定試験結果 	30

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科： 商業 科目：ビジネス経済 対象：(第3学年 A組～ F組) (第3学年 選択)

使用教科書	実教出版 『ビジネス経済』	使用副教材等	ビジネス経済問題集 (実教出版) 適宜教員作成プリント等を使用予定
-------	---------------	--------	--------------------------------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	1. 経済の基本 2. 資源配分のしくみ 3. 現代の市場経済とビジネス 4. 需要の概念と需要の変化	1. ① 経済とは ② マクロ経済学とミクロ経済学 2. ① さまざまな財 ② 資源配分メカニズム ③ 市場メカニズム ④ 効率的な資源配分 ⑤ 組織による資源配分 ⑥ 市場と組織 ⑦ 市場経済と計画経済 3. ① 現代の市場 ② 市場と競争 4. ① 財と市場 ② 需要の概念 ③ 最適な消費行動 ④ 効用と消費量の関係 ⑤ 代替材と補完財 ⑥ 需要の弾力性	提出物、課題、授業態度など総合的に判断し評価する。 定期考査 (期末考査)	26
二 学 期	1. 供給の概念と供給の変化 2. 価格決定のしくみ 3. 市場の役割と課題 4. GDP (国内総生産) 5. 経済循環 6. 物価と実質 GDP 7. 経済成長 8. 景気変動とインフレーション	1. ① 供給の概念 ② 限界費用 ③ 企業の最適生産 ④ 供給の弾力性 2. ① 市場の均衡 ② 均衡の変化 3. ① 市場経済における財と生産要素の配分 ② 不完全競争と独占 ③ 不完全競争と寡占 ④ 自由競争と政府 ⑤ 不完全競争と独占的競争 ⑥ 政府の規制と課税 ⑦ 市場の限界 4. ① 付加価値と GDP ② 日本の GDP ③ GDP と豊かさ ④ 国民総生産 ⑤ 資本ストック 5. ① 家計と企業 ② 政府と外国 ③ 三面等価 6. ① 物価指数 ② 物価上昇率 ③ インフレーションとデフレーション ④ 実質 GDP と経済成長率 7. ① 日本の経済成長 ② 経済成長の要因 ③ 日本経済を成長させるため 8. ① 景気指標 ② 景気変動の要因 ③ 物価変動の要因 ④ 国際化と景気変動 ⑤ 景気変動の弊害 ⑥ 物価変動の弊害	提出物、課題、授業態度など総合的に判断し評価する。 定期考査 (期末考査)	29
三 学 期	1. 経済政策	1. ① 政府の役割 ② 混合経済体制 ③ 国の予算制度 ④ 社会保障制度 ⑤ 税 ⑥ 財政赤字と国債 ⑦ ポートフォリオ選択 ⑧ 直接金融と間接金融 ⑨ 貨幣 ⑩ 日本銀行 ⑪ 預金通貨とマネーストック ⑫ 準備預金制度 ⑬ 信用創造 ⑭ 金融政策	提出物、課題、授業態度など総合的に判断し評価する。	10

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科：産業（ものづくり） 科目：ガラス工芸B 対象：（第3学年 A組～ F組）（第3学年 選択）

使用教科書	なし	使用副教材等	なし
-------	----	--------	----

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	江戸切子 ・ ガイダンス ・ 板ガラス ・ ボウル ・ タンブラー ・ 色着せガラス	・ 江戸切子の伝統を学習し、カットワークの技法、特性について理解を深める。 ・ 専門家の指導を受け、江戸切子の初歩から段階的に専門的技術を体験する。	・ 出席状況、授業態度、作品の完成度、報告書を総合的に判断して、評価する。 ・ 関心、意欲、態度については、授業中および課題提出等の学習状況を考慮する。 ・ 知識、理解については、報告書の作成状況および授業内の質問等により評価する。 ・ 技能、表現、思考については、ものづくりに対する姿勢および作品のクオリティーで評価する。	28
二 学 期	江戸切子 ・ タンブラー ・ 色着せガラス ・ 各自の課題	・ 色着せガラスにカットワークを施すことで、道具と文様の関係について学び、オリジナルデザインの切子作品を制作する。 ・ 各自の加工技術に応じたデザインを工夫する。	<u>江戸切子について</u> ・ 線が均等の太さになっているか。 ・ 交差部分がきちんと中央にそろっているか。 <u>サンドブラストについて</u> ・ デザインカッターを正しく使用し、きれいにシールがカットできているか。 ・ デザインに工夫があり、ガラスの器やお皿の形状に合っているか。	28
三 学 期	江戸きり子・サンドブラスト・トンボ玉	・ サンドブラストの基本技術を習得する。 ・ 1学年で学んだトンボ玉を復習する。 ・ ガラス工芸のなかで、コールドワークとバーナーワークを経験し、その違いと特徴について考える。	<u>トンボ玉について</u> ・ ガラスの特質を理解した上で、デザイン、制作をおこなっているか。	14

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科：産業（ものづくり） 科目：木工B 対象：（第3学年 A組～ F組）（第3学年 選択）

使用教科書	なし	使用副教材等	なし
-------	----	--------	----

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・木工の基礎学習 材料及び作業工程について学ぶ 手加工および木工具について学ぶ ・建築の基礎学習 	<p>(1) ガイダンス</p> <p>1) 実習の心構えと安全指導</p> <p>2) 基本の道具の名前と保管場所を理解する</p> <p>(2) 木工の基礎学習</p> <p>1) 手道具の使い方を理解する (のみ、鋸、鉋等)</p> <p>2) 木材の各名称を理解する (木表・木裏・ならい目等)</p> <p>3) 基本加工の体験</p> <p>(3) 建築の基礎学習</p> <p>1) 建築業界の仕事についての学習</p> <p>2) 建築業界の仕事の体験・実習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況、授業態度、作品の完成度を総合的に判断して、評価する。 ・関心、意欲、態度については、授業中および課題提出等の学習状況を考慮する。 ・知識、理解については、授業内の質問等により評価する。 ・技能、表現、思考については、ものづくりに対する姿勢および作品のクォリティーで評価する（失敗の修正も考慮する） 	<p>2</p> <p>20</p> <p>6</p>
二 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・木工の応用学習 	<p>(4) 木造軸組み工法</p> <p>1) 墨付作業・材料取り</p> <p>2) 手加工（50%）機械加工（50%）</p> <p>3) 仮組（調整・接着）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況、授業態度、作品の完成度を総合的に判断して、評価する。 ・関心、意欲、態度については、授業中および課題提出等の学習状況を考慮する。 ・知識、理解については、授業内の質問等により評価する。 ・技能、表現、思考については、ものづくりに対する姿勢および作品のクォリティーで評価する（失敗の修正も考慮する） 	28
三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・仕上、完成 	<p>(5) 棟上げ式</p> <p>1) 軸組みの組み立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況、授業態度、作品の完成度を総合的に判断して、評価する。 ・技能、表現、思考については、ものづくりに対する姿勢および作品のクォリティーで評価する（失敗の修正も考慮する） 	14

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科：産業（ものづくり） 科目：インダストリアルデザインB 対象：（第3学年A組～F組）（第3学年 選択）

使用教科書	なし	使用副教材等	なし
-------	----	--------	----

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	・ ガイダンス	・ 一年間の学習について話をする	出席状況、作品の完成度、授業の理解度、レポートなどを総合的に判断し、評価する	2
	・ インダストリアルデザインの役割について	・ インダストリアルデザインとは何か？ ・ 大量生産の意味・種類 ・ よいデザインとは何か？ ・ 売れるデザインとは何か？		1 2
	・ デザインの発想法	・ 発想法の練習 ・ アイディアスケッチの描き方 ・ パースの描き方		1 4
二 学 期	・ イラストレータ・フォトショップによるデザイン	・ イラストレータの使い方 ・ ベジェ曲線・パスファインダー・アウトライン ・ フォトショップの使い方 ・ 色調補正・トリミング・切り抜きと合成	出席状況、作品の完成度、授業の理解度、レポートなどを総合的に判断し、評価する	9
	・ カuttingプロッタによる作品制作 I	・ 共通作品 ・ Cuttingプロッタの使い方		9
	・ Cuttingプロッタによる作品制作 II	・ 自由作品		1 0
三 学 期	・ 総合的な作品制作	・ 総合的な作品制作	出席状況、作品の完成度、授業の理解度、レポートなどを総合的に判断し、評価する	1 0
	・ 作品のプレゼンテーションを学習させる	・ プレゼンテーションについて理解させる ・ 自分の作品についてのプレゼンテーションを考えさせ、発表させる		4

令和3年度 年間授業計画

都立 橋 高等学校

教科：産業（ものづくり） 科目 グラフィックデザインB 対象：（第3学年A組～F組）（第3学年 選択）

使用教科書	なし	使用副教材等	なし
-------	----	--------	----

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・イラストレータによる応用作品制作 ・フォトショップによる応用作品制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間の学習について話をする ・イラストレータの使い方（応用） ・ロゴマークについて（応用） ・パンフレットについて（応用） ・フォトショップの使い方（応用） ・色の補正について（応用） ・トリミングについて（応用） ・切り抜きと合成について（応用） 	出席状況、作品の完成度、授業の理解度、レポートなどを総合的に判断して評価する	2
				4
				4
				4
				4
二 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストレータとフォトショップによる総合的な作品制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・画像はフォトショップ、レイアウトやロゴマークはイラストレータで、CDジャケットや作品集を作る 		30
三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な作品制作 ・作品のプレゼンテーションを学習させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な作品 ・プレゼンテーションについて理解させる ・自分の作品についてのプレゼンテーションを考えさせ、発表させる 		10

令和3年度 年間授業計画

東京都立橋高等学校 全日制

教科：産業（ビジネス系） 科目：ビジネス実践Ⅰ 対象：（第__学年 __組～ __組）（第3学年 II・III群 選択）

使用教科書	なし	使用副教材等	秘書検定3級実問題集(早稲田教育出版)
-------	----	--------	---------------------

	指導内容	具体的な指導項目	評価の観点と方法	予定時数
一学期	<p>○秘書検定3級の内容を学習する。</p> <p>○秘書検定の学習を通じて、社会人としての仕事の基本及び実践的な処理能力を育成する。</p> <p>○秘書検定3級模擬問題3回分程度の演習、解説をして帰納的な理解、指導手法を中心とする。</p>	<p>I 必要とされる資質</p> <p>1 秘書としての仕事を行うための資質</p> <p>①初歩的な秘書処理能力</p> <p>②秘書に必要な判断力・記憶力・表現力・行動力</p> <p>③秘書としての気配りや機密厳守</p> <p>2 秘書として要求される人柄</p> <p>①身だしなみの心得と良識 ②誠実さ、明朗さ、素直さ</p> <p>II 職務知識</p> <p>1 秘書的な仕事の機能</p> <p>①秘書としての仕事上の機能</p> <p>②仕事における上司の機能と秘書の機能</p> <p>③上司と秘書の各々の役割分担と良好な関係</p>	授業態度、出欠状況 提出物、試験による。	10
二学期	<p>○秘書検定3級の内容を学習する。</p> <p>○秘書検定の学習を通じて、社会人としての仕事の基本及び実践的な処理能力を育成する。</p> <p>○11月の秘書検定対策</p>	<p>III 一般知識</p> <p>1 社会常識</p> <p>①社会常識 ②時事問題</p> <p>IV マナー・接遇</p> <p>1 人間関係</p> <p>①人間関係を円滑に行うための初歩的知識</p> <p>2 マナー</p> <p>①ビジネスマナーと一般的なマナー</p> <p>3 話し方と接遇</p> <p>①一般的な敬語と接遇用語の使い方</p> <p>②簡単で短い報告や説明の仕方</p> <p>③真意を捉える聞き方</p> <p>④注意や忠告の受け方</p> <p>4 交際の業務</p> <p>①慶事や弔事に伴う庶務の仕事、情報収集 ②贈答のマナー</p> <p>v 技能</p> <p>1 会議</p> <p>①会議に関する基礎知識 ②会議の進行方法 ③会議の手順</p> <p>④会議の計画 ⑤会議の準備 ⑥会議の事後処理</p> <p>2 文書の作成</p> <p>①簡単な社内文書の作成 ②簡単なグラフの作成</p> <p>3 文書の取り扱い</p> <p>①文書の送付方法 ②受発信事務 ③④文書の取り扱い</p> <p>4 ファイリング</p> <p>①簡単なファイルの作成、整理、保管</p> <p>5 資料管理</p> <p>①名刺や業務上必要な資料の整理と保管</p> <p>②社内外情報収集とその整理・保管</p> <p>6 スケジュール管理</p> <p>①上司の簡単なスケジュールの管理の方法</p> <p>7 環境・事務用品の整備</p> <p>①オフィスの簡単な整備と管理</p> <p>②事務用品の簡単な整備と管理</p> <p>秘書検定3級対策(模擬試験を2～3回実施) (検定後)年間の総復習(主にビジネスマナー)</p>	授業態度、出欠状況 提出物、試験による。	22
三学期	○総復習	年間の総復習。特にそれまでに学習した内容から仕事に必要な基本知識(事務処理と人間関係)の復習と応用	授業態度、出欠状況 提出物、試験による。	4

令和3年度 年間授業計画

都立 橋 高等学校

教科： 産業（ビジネス） 科目： ビジネス計算Ⅰ 対象：（第3学年 I群Ⅱ群選択）

使用教科書	なし	使用副教材等	全商珠算電卓検定模擬試験問題集3-級（実教出版）
-------	----	--------	--------------------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	I. 電卓による初歩的な計算技術 （全商珠算・電卓検定3級の普通計算）	(1) タッチメソッドの基本技術の習得 (2) 普通計算（乗算、除算、見取算、伝票算、構成比率の計算） (3) 3級普通計算部門の速度と正確性の向上	電卓の機能を知り、 簡単な計算に利用する ことができる。 正しく、速く計算がで きる。 定期考査 授業への取り組み 提出物・出欠状況	10
二 学 期	II. ビジネスに関する計算 1. 度量衡の計算 2. 貨幣の換算 3. 割合の計算 4. 利息(単利)の計算 5. 1学期の復習と確認 III. 検定試験合格に向けて （全商珠算・電卓実務検定3級） IV. 2学期の復習と確認	(1) 普通計算の復習 (2) ビジネス計算の復習 (1)長さの換算 (2) 重さの換算 (1)外貨(ドル、ポンド、ユーロ)→邦貨への換算 (2) 邦貨→外貨への換算 (1) 増加率 (2) 減少率 (1)利息の計算 (2) 元利合計の計算 (1) 普通計算の復習 (2) ビジネス計算の復習	ビジネス計算の問題を 理解し、計算式に置き 換え、正確に計算する ことができる。 定期考査 授業への取り組み 提出物・出欠状況	22
三 学 期	III. ビジネス計算応用 （全商珠算・電卓実務検定2級の 範囲）	(1)逆算による利率、期間、元金の計算 (2)割引料の計算 (2)手取金の計算	2級のビジネス計算に ついて関心を持ち、積 極的に取り組むことが できる。 定期考査 授業への取り組み 提出物・出欠状況	4

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科： 産業科（ビジネス） 科目： ビジネス実践Ⅱ 対象：（第3学年 A組～ F組）（第3学年 選択）

使用教科書	使用副教材等	早稲田教育出版 秘書検定2級パーフェクトマスター
-------	--------	--------------------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	必要とされる資質 秘書の心構え	(ア)職業人としての自覚と心構えについて理解し、関心をもつ。 (イ)秘書の評価は上司の評価につながることで秘書の仕事の流れを知る。 (ウ)秘書は、上司の補佐役であることと上司を理解し、意向に沿って仕事の進め方を知ることを知る。 (エ)機密を守り、信頼がおける人柄が求められることを理解する。	知識・理解 秘書としての心構え、基本的な知識を理解している。	6
	秘書に必要な条件	(ア)仕事を手際よく処理する処理能力と先を読んで素早く動く行動力が大切であることを知る。 (イ)指示の真意を知り、状況に応じて判断する能力が大切であることを知る。 (ウ)秘書はパイプ役として上司や多くの関係者を橋渡しする立場にもあることを理解する。	関心・意欲 授業に向かう態度、ワークシートへと取り組む姿勢で判断。	6
	職務知識 秘書の役割と機能 秘書の職務	(ア)秘書には、直接補佐型秘書と間接補佐型秘書の2種類があり、その分類について理解する。 (イ)秘書は上司の仕事の代行はできないことを理解し、職務における心構えについて関心をもつ。	思考・判断 ワークシートを使い、問題について考察している。	6
二 学 期	一般知識 企業と経営	(ア)企業の大半は、株式会社であることを知り、資本と経営の分離について理解する。 (イ)組織形態の種類について、特に職能別と事業別があることを知る。 (ウ)PDSサイクルは経営管理の基本的なことであることを知り、経営管理の用語について理解する。	知識・理解 秘書の一般知識、社会常識（マナー）について理解している。	4
	企業の活動	(ア)企業が業績を伸ばすために、人事管理や労務管理が必要であることを理解する。 (イ)人事管理、労務管理に関する用語を身につける。 (ウ)会計、財務に関する用語を身につける。 (エ)金融に関する用語を身につける。 (オ)税務に関する用語を身につける。 (カ)マーケティングに関する用語を身につける。	関心・意欲 授業に向かう態度、ワークシートへと取り組む姿勢で判断。	4
	社会常識	(ア)情報、ニューメディア、社会常識関連の用語を理解し、身につける。	思考・判断 ワークシートを使い、問題について考察している。	2
	マナー・接遇 人間関係と話し方・聞き方 話し方・聞き方の応用	(ア)人間関係の重要性（マズローの欲求段階説）について理解する。 (イ)変化する人間関係に素早く対応することとトラブルを避けるため、秘書の心構えを身につける。 (ウ)話の効果の決定権は聞き手にあることを知り、理解してもらえる話し方、接し方を身につける。 (エ)敬語の使い分けについて身につける。		6
	電話対応と接遇	(ア)電話対応の基本と接遇用語について身につける。		6
	交際	(ア)慶事の対応、弔辞の対応、心得、マナーについて理解する。 (イ)贈答のしきたり、マナーについて身につける。		6
三 学 期	技能 会議と秘書	(ア)秘書に必要な会議の知識、秘書が行う会議の準備、設営について理解する。	知識・理解 秘書の技能、文書作成の方法について理解している。	2
	ビジネス文書の作成	(ア)社内文書の種類と形式の留意点について理解し、実際に作成し身につける。 (イ)社外文書の種類と形式の留意点について理解し、実際に作成し身につける。 (ウ)ビジネス文書の慣用句について（時候の挨拶など）理解する。 (エ)尊敬語の表現と謙譲語の表現について理解し、正しい敬語表現を身につける。		2
	文書の取り扱い	(ア)受信文書の取り扱い、社外文書の留意点について理解する。 (イ)はがきと封書の知識について、基本的なはがき作成を通して身につける。	関心・意欲 授業に向かう態度、ワークシートへと取り組む姿勢、実践を通して判断。	2
	文書・資料管理	(ア)パーチャル・ファイリングの基本的整理法や資料の保管についての知識を身につける。	思考・判断 ワークシートを使い、問題について考察している。	2
	日程管理とオフィス管理	(ア)日程管理の意味と種類について理解する。 (イ)OA機器の種類とオフィス環境への配慮について知る。	実践を通して判断。	2

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科：産業科（ビジネス系） 科目：ビジネス計算Ⅱ 対象：（第3学年 A組 ～ F組）（第3学年 III群選択）

使用教科書	なし	使用副教材等	『全国商業高等学校協会主催 珠算・電卓実務検定模擬試験問題集 1級』実教出版
-------	----	--------	--

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	<p>※ 年間を通して、全商1級範囲の過去問題練習・解説を通し、以下の内容を学び、電卓を用いた計算方法の技術を身につけていく。</p> <p>< 1 > 授業ガイダンス(初回授業のみ)</p> <p>< 2 > 普通計算問題演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見取算の練習 ・ 乗除算の練習 ・ 伝票算の練習 	<p>< 1 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員、昨年度ビジネス計算Ⅰを習得した者ばかりということ踏まえ、更なる向上（1級合格）を目指し、モチベーションをあげる。 ・ 全商電卓検定1級についての受験情報を確実に理解する。 <p>< 2 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通して、普通計算の練習を行い、全商1級範囲の計算に関しては、検定基準の時間内（30分）に完全に終わらせることができるような技術を身に付ける。 ・ 問題解答のみを目的とせず、卒業後の仕事に活かせるよう、計算速度の向上とともに、丁寧な数字の記入ができる。 ・ 計算機の様々な機能を使いこなすことができる技術を身に付ける。 ・ 3学年であることに留意し、早期の検定合格を目指し問題練習を積極的に行う。 	<p>知識・理解の達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査、全商電卓検定の結果により判断。 <p>関心・意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度、課題提出により判断。 <p>思考判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への取り組み状況、授業中の発言、課題提出などにより判断。 	<p>1 時間</p> <p>30 時間</p>
二 学 期	<p>< 3 > ビジネス計算部門問題演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3級、2級範囲の復習 ・ 期間の求め方 ・ 単利計算 ・ 元利合計に関する計算 ・ 利率の求め方 ・ 積数法による利息合計の求め方 ・ 積数法による元利合計の求め方 ・ 手形割引の計算 ・ 売買損益の計算 ・ 仲立人の手数料の計算 ・ 複利の計算 <p>< 4 > 全商電卓検定過去問題演習</p>	<p>< 3 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度受講のビジネス計算Ⅰで学んだ、3級・2級の範囲についての復習を丁寧に行い、早期のうちに確実に解答できる力を身に付ける。 ・ 新しい学習範囲、生徒の実態に即した解説及び、個別指導から、早期に技術を取得する。 ・ 卒業後の生活に活かす事ができるように、計算方法だけでなく、その計算の意味を理解する。 <p>< 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去問題の練習を通して、電卓の技術を取得、各ビジネス計算の計算方法を取得し、検定合格を目指す。 		<p>30 時間</p> <p>9 時間</p>
三 学 期				

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科： 産業（ビジネス） 科目： 情報処理 I 対象：（第3学年 A組～ F組）（第3学年 I群選択）

使用教科書	なし	使用副教材等	日検表計算 問題集（日本情報処理検定協会）
-------	----	--------	-----------------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	1. 基本的なパソコン操作 2. 関数を利用した表の作成 3. 基礎的なグラフ作成 4. 有用なビジネス関連の表の作成 5. タッチメソッドの基礎練習	パソコンを扱うに当たっての一連の基本的操作（ファイルの作成・保管・印刷・ファイル管理）を理解する。 (1)表計算ソフトウェアの特徴の理解と基本操作 (2)関数を利用してビジネス関連の基本的な表を作成する。 i 合計、平均、最大値、最小値、判定、件数カウント、端数処理、順位付けや日付などの関数の習得 ii 表の検索の基本的な関数の利用 (1) グラフを用いて表のデータをわかりやすく表現できるようにするため、グラフの基礎知識や作成方法 (1) 習得した関数の複合・応用ができ、excel ソフトを利用し、ビジネス関連の表作成する。 (1)フリーソフトを利用した練習 (2)検定問題を利用した速度入力練習	表計算ソフトの基本的な利用ができる タッチメソッドのやり方を理解している 実技テスト 授業への取り組み	1 4 2
二 学 期	5. 表計算ソフトの高度な機能の活用 6. 表計算ソフトデータベース的な活用 7. ワードソフトによるビジネス文書の作成	(1)関数の利用・・・検索、データベース関数等 (2)グラフの応用・・・レイアウト、データの表示方法等 (1)ピボットテーブルの利用 (2)データベースとしてのデータ活用方法 (1)ビジネス文書の構成 (2)タッチメソッドの練習	様々なデータ処理を必要とする表を作成できる 初歩的なビジネス文書の作成ができる 実技テスト 授業への取り組み	1 8
三 学 期	1. 表計算ソフトの活用 2. ワードソフトによるビジネス文書の作成基礎 3. PCの活用について	(1)表計算の利用技術の活用 (2)習熟度に応じた検定受験 日本情報処理検定協会「表計算」の上位級受験 (1)タッチメソッドによる処理速度向上 (1)表計算ソフトとワードソフトの有効な活用方法	表計算ソフトやワードソフトを効率的に利用することができる 検定 実技テスト 授業への取り組み	1 2

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科：産業（ビジネス） 科目：情報処理Ⅱ 対象：（第3学年 A組～ E組）（第3学年 IV群選択）

使用教科書	使用副教材等	プリンター表計算1級初段過去検定問題（日本情報処理検定協会）
-------	--------	--------------------------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	<授業の目標・目的> ・表計算ソフトの利用目的を伝える。	(1) 表計算ソフトを利用し適切な資料を作成し、分析できる知識・技能を身に付けることを目的とすることを理解する。 (2) 検定試験を積極的に受験し、自己の実力を客観的にとらえるとともに、次の課題を明確にし、知識・技能を身に付ける。	<知識・理解の達成度> ・提出物 ・定期的な試験	4時間
	<表計算ソフトの知識、技能の修得> ・検定1級の演習	(1) 表計算ソフトで適切な表・グラフを作成するために必要な関数の活用方法を身に付ける。 (2) 時間内で適切な表・グラフを作成できる技能を身に付け、作成の工夫について考え力を養う。 (3) コンピュータに係るハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、データファイル等の知識について理解する。	<関心・意欲> ・授業中の取り組みや態度 ・宿題・課題の提出 ・問題に積極的に取り組む姿勢	19時間
	<総合的な問題演習>	(1) 総合的な問題演習を通して、知識・技能の定着を図り、自己の課題を自覚して繰り返し学習を行い、目標を達成する。	<思考判断> ・授業での発言や回答意欲 これらを総合的に判断する	5時間
二 学 期	<表計算ソフトの応用的な知識、技能の修得> ・検定初段の演習	(1) ピボットテーブル・ゴールシーク・ソルバー等の表計算の応用技術を含む演習問題に取り組み、知識・技能を身に付ける。 (2) 時間内に適切な問題分析力と入力の手速、ソフトの操作、関数の利用等について、検定問題を適切に解答できる力を養う。	<知識・理解の達成度> ・提出物 ・定期的な試験	11時間
	<複合的なグラフの作成>	(1) 作成の難易度が高いグラフの作成について、問題文を適切に判断し、必要なグラフを選び、表の各要素の適切に配置できる等の力を養う。	<関心・意欲> ・授業中の取り組みや態度 ・宿題・課題の提出 ・問題に積極的に取り組む姿勢	6時間
	<総合的な問題演習>	(1) 総合的な問題演習を通して、知識・技能の定着を図り、自己の課題を自覚して繰り返し学習を行い、目標を達成する。	<思考判断> ・授業での発言や回答意欲	9時間
	<ソフトウェア間のデータの共有>	(1) 表計算ソフトとワープロソフト間でデータを共有する知識を理解し、必要な資料を判断できる力を養う。 (2) 表計算ソフトで作成した表とグラフをリンクさせてワープロソフトで活用できる技能を身に付ける。	これらを総合的に判断する	4時間
三 学 期	<マクロ機能> ・マクロ機能の利用方法	(1) 実務的で表計算ソフトを活用できる力を身に付けるため、基本的なマクロ機能の知識・技能を理解する。 (2) マクロ機能を利用した表を作成し、実際に利用するための工夫を考え、利用者の立場になってソフトウェアを考える力を養う。	<知識・理解の達成度> ・提出物 ・定期的な試験 <関心・意欲> ・授業中の取り組みや態度 ・宿題・課題の提出 ・問題に積極的に取り組む姿勢 <思考判断> ・授業での発言や回答意欲 これらを総合的に判断する	12時間

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科：産業（IT） 科目：情報基礎Ⅱ 対象：（第__学年 __組～ __組）（第3学年 選択）

使用教科書	なし	使用副教材等	自校作成教材
-------	----	--------	--------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	I データベースシステムの概要 1 オリエンテーション 2 データベースソフトウェアの基本操作とデータベースの編集	I-1 オリエンテーション データベースの学習の意義や内容、学習の進め方、評価方法について理解する。 I-2 データベースソフトウェアの基本操作 ①データベースとは何か ②起動 ③データを開く ④画面構成と各部名称 ⑤テーブル操作 ⑥データの検索 ⑦選択フィルタの利用 ⑧選択の絞込み ⑨フォームフィルタの利用 ⑩レコード並べ替え ⑪データの印刷 ⑫演習	関心・意欲・態度の達成度 ・ データ処理の特性を通じて、自ら問題・課題を発見しようと努めているか。 知識・理解の達成度 ・ ソフトウェアを正しく操作して、目的のデータ処理ができてきているか。 思考・判断・表現の達成度 ・ 自己判断に基づいた処理過程を導くことができてきているか。 技能の達成度 ・ 技能検定試験に合格できる技能を身につけたか。	I-1 1時間 I-2 25時間
二 学 期	II テーブルの操作	①選択クエリの使用 ②更新クエリの使用 ③新規テーブルの作成 ④データをクエリで追加 ⑤データをクエリで削除 ⑥テーブルの集計 ⑦クロス集計 ⑧異なる値で選択する方法 ⑨演習	関心・意欲・態度の達成度 ・ データ処理の特性を通じて、自ら問題・課題を発見しようと努めているか。 知識・理解の達成度 ・ ソフトウェアを正しく操作して、目的のデータ処理ができてきているか。 思考・判断・表現の達成度 ・ 自己判断に基づいた処理過程を導くことができてきているか。 技能の達成度 ・ 技能検定試験に合格できる技能を身につけたか。	30時間
三 学 期	III SQLの理解	①SQLとは ②SQLの文法 ③SQLクエリ	関心・意欲・態度の達成度 ・ データ処理の特性を通じて、自ら問題・課題を発見しようと努めているか。 知識・理解の達成度 ・ SQLの文法を理解しているか。 思考・判断・表現の達成度 ・ 自己判断に基づいた処理過程を導くことができてきているか。 技能の達成度 ・ 技能検定試験に合格できる技能を身につけたか。	14時間

令和3年度 年間授業計画

都立 橋 高等学校

教科： 産業（IT） 科目： コンピュータ・グラフィックスA 単位数 2単位 対象：（第3学年 選択）

使用教科書		使用副教材等	『入門CGデザイン』CG-ARTS 協会
-------	--	--------	----------------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	1. オリエンテーション	① 教室利用のルールと授業の進め方について理解し、授業へ主体的に参加する。 ② 授業の目的と評価の規準について理解し、CG領域における知識理解と技能習得の均衡について認識する。	関心・意欲・態度 演習および授業への参与状況等について観察を行う	1時間
	2. 画像の表現とCGシステム	① CG画像の生成と、視覚可能な仕組みについて理解する。 ② 画像ファイルの種類と画像圧縮技術の概念について理解する。	知識・理解 レポートならびに考査の結果に基づき到達度を判断する	5時間
	3. フォトレタッチの基礎	① 写真撮影とレタッチの原理と用途について理解する ② フォトレタッチの表現技法について演習を通して技能を習得する。	レポートならびに考査の結果に基づき到達度を判断する	6時間
	4. 色調補正	① 色の補正と表現としての調整について理解する。 ② コントラストの調整とカラーバランスの調整について理解するとともに、演習を通して表現技能を習得する。	思考・判断 演習における作品制作の工夫について観察を行う	6時間
	5. 総合制作課題①	① 文化祭ポスター・パンフレットの校内コンペ作品を制作する。	技能・表現 授業課題の成果により習得度を判断する	6時間
二 学 期	6. 2次元CG画像生成の仕組みと制作演習	① ペイントシステムにおける描画の仕組みについて理解するとともに、演習を通して表現技能を習得する。 ② アンチエイリアシングについて理解するとともに、演習を通して表現技能を習得する。	関心・意欲・態度 演習および授業への参与状況等について観察を行う	10時間
	7. 2次元CG画像生成の基本技術と基礎演習	① ラスタ形式描画ソフトウェアを活用して、以下のCG技術について理解するとともに、その技法を習得する。 ○ ヒストグラムと画像の統計量 ○ 画素単位での濃淡変換 ○ 画像構成要素の置換と画像間演算 ○ フィルターによる特殊効果 ○ 文字の加工 ○ ウェブ用画像	知識・理解 レポートならびに考査の結果に基づき到達度を判断する	8時間
	8. ベクタ形式画像の原理と制作演習	① ベクタ形式画像の特徴と用途について基礎的な知識を理解する。 ② 塗りと線の描画手法と特徴について理解するとともに、ラスタ形式画像との相違について演習を通じて体感する。 ③ ドロー系描画ソフトウェアを活用して、以下のCG技術について理解するとともに、その技法を習得する。 ○ パスの描画（ベジェ曲線） ○ 文字の生成と編集 ○ 印刷入稿データの作成	思考・判断 演習における作品制作の工夫について観察を行う	8時間
9. ドロー系描画ソフトウェアによるデザイン成果物の制作演習	① CG（デジタル）と印刷物（アナログ）の関係について理解するとともに、作業工程間のスムーズな連携に必要な実践的な技能を習得する。 ② 産業用途におけるCG活用の実情を理解するため、各種制作演習課題に取り組み、実務に即した応用技術を習得する。 ○ ロゴマーク ○ オリジナル名刺	技能・表現 授業課題の成果により習得度を判断する	8時間	
三 学 期	10. 知的財産権と著作権	① 著作権および産業財産権（工業所有権）に関する法の精神を理解するとともに、具体的な判例を基に法の適用範囲や権利の保護について理解を深める。	関心・意欲・態度 演習および授業への参与状況等について観察を行う	4時間
	11. 総合制作課題②	① キラキラ橋商店街販売実習の告知チラシを制作する。	知識・理解 レポートならびに考査の結果に基づき到達度を判断する 思考・判断 演習における作品制作の工夫について観察を行う 技能・表現 授業課題の成果により習得度を判断する	8時間

令和3年度 年間授業計画

都立 橘 高等学校

教科： 産業 (IT) 科目： コンピュータ・グラフィックスB 単位数 2単位 対象： (第3学年 選択)

使用教科書		使用副教材等	『入門CGデザイン』CG-ARTS 協会
-------	--	--------	----------------------

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	12. オリエンテーション	③ 教室利用のルールと授業の進め方について理解し、授業へ主体的に参加する。 ④ 授業の目的と評価の規準について理解し、立体CG領域における知識理解と技能習得の均衡について認識する。	関心・意欲・態度 演習および授業への参与状況等について観察を行う	1時間
	13. 3DCG画像生成の基本技術と基礎演習	① 3Dソフトウェアを活用して、以下の3DCGに関する基礎技術について理解するとともに、その技法を習得する。	知識・理解 レポートならびに考査の結果に基づき到達度を判断する	5時間
	A) 透視変換とパースペクティブ	○ ローカル座標系とワールド座標系 ○ 透視変換とビューボリューム ○ クリッピングとスケール ○ 視野角度と焦点距離 ○ ズームアップとトラックアップ	思考・判断 演習における作品制作の工夫について観察を行う	4時間
	B) シェーディング	○ コンピュータ内部での光の計算 ○ 物体質感と光源 ○ ディフューズ、スペキュラ、アンビエント、シェーディング	技能・表現 授業課題の成果により習得度を判断する	4時間 10時間
	C) 光源と影	○ 光源の種類と反射		
	D) マッピング	○ テクスチャマッピングと素材の形状 ○ プロジェクション法 ○ ロールマップ ○ バンプマッピング ○ ディスプレースメントマッピング ○ リフレクションマッピングとリフラクションマッピング ○ 環境マッピング		

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
二 学 期	2. 3DCG画像生成の基本技術と基礎演習 E) レンダリングパイプライン F) レイトレーシングとラジオシティ G) ボリュームレンダリング	② 3Dソフトウェアを活用して、以下の3DCGに関する基礎技術について理解するとともに、その技法を習得する。 ○ レンダリング時の座標変換 ○ 隠面陰線処理 ○ Zソート法, Zバッファ法, スキャンライン法 ○ レンダリングとアンチエイリアシング ○ スーパーサンプリング ○ サブディビジョンサーフェースと α バッファ ○ レイトレーシングの動作原理 ○ 光線と物体の公差範囲 ○ 反射・透過・屈折とその問題点 ○ 高速化技術 ○ ラジオシティ法とフォームファクター ○ ラジオシティ法とテクスチャマッピング・レイトレーシング ○ ボリュームレンダリングの原理	関心・意欲・態度 演習および授業への参与状況等について観察を行う 知識・理解 レポートならびに考査の結果に基づき到達度を判断する 思考・判断 演習における作品制作の工夫について観察を行う 技能・表現 授業課題の成果により習得度を判断する	18 時間
	3. 3DCGアニメーションの原理と制作演習	④ 3DCGアニメーションに関する基本的な仕組みについて理解する。 ⑤ 3DCGアニメーションの制作手順について理解するとともに、演習を進めることにより制作手法の相違について体感する。 ⑥ 3DCGアニメーション制作ソフトウェアを活用して、以下の3DCGの制作技術について理解するとともに、その技法を習得する。 ○ キーフレーム法とスケルトン法 ○ 特殊効果と形状変形 ○ 手続き型アニメーション ○ インバースキネマティクスとフォワードキネマティクス ○ キャラクターアニメーションとリアルタイムアニメーション ○ マッチムーブ		18 時間
三 学 期	4. 知的財産権と著作権	② 著作権および産業財産権（工業所有権）に関する実際の手続きについて理解する。	関心・意欲・態度 演習および授業への参与状況等について観察を行う 知識・理解 レポートならびに考査の結果に基づき到達度を判断する	10 時間

令和3年度 年間授業計画

都立 橋 高等学校

教科： 産業 (IT) 科目： 情報システム論 対象： (第3 学年 組～ 組) (第3 学年 選択)

使用教科書	ITパスポート ニュースペックテキスト	使用副教材等	
-------	---------------------	--------	--

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一 学 期	<p>1. 企業とストラテジ 企業での雇用形態から、業務改善対策及び生産・販売管理を理解し、コンピュータでのシステム開発技術を身に付ける。</p> <p>2. 業務システムとマネジメント 現在のビジネスで利用されている業務システムのあり方を理解し、会計管理、販売管理に関するマネジメントシステムを学習する。また、システムの運用と保守管理、システムの稼働率について学習する。</p>	<p>(ア) 企業の業務の流れを理解し、企業組織の形を学習する。</p> <p>(イ) 雇用と労働の形態を理解すると共に、企業が果たす役割と法令規範を学習する。</p> <p>(ウ) 業務改善に関する、基本的扱い方を理解すると同時に、業務のモデル化が行えるように学習する。</p> <p>(エ) 企業における、情報の統計と確立を理解し、業務での適切な扱い方を学習する。</p> <p>(オ) 生産・販売管理を理解すると共に財務管理を学習し、管理システムをコンピュータで行えるように技術を身に付ける。</p>	<p>知識・理解の達成度 定期考査により判断 授業内で行う小テストにより判断 ノートやレポート提出から判断</p> <p>関心・意欲 授業に向かう参加態度により判断</p>	10 時間
		<p>(ア) コンピュータと業務システムの関係について理解する。</p> <p>(イ) 会計管理と業務システムから、販売活動で利用されるビジネスシステムのマネジメントシステムを学習する。</p> <p>(ウ) 業務システムの導入から廃棄までを計画するシステムの構築方法と考え方を理解する。</p> <p>(エ) システム開発の工程を理解し、業務システムの構築方法と専門用語を学習する。</p> <p>(オ) システム運用と保守管理について、稼働率・故障率の算出方法を理解する。</p>	<p>思考判断 授業での発言により判断</p>	16 時間
二 学 期	<p>3. ITとコンピュータ IT機器がビジネス社会でどの様に利用されているか理解すると同時に、コンピュータ内部での情報の扱い方を理解する。</p> <p>4. ハードウェアとソフトウェア コンピュータ内の内部構造をCPUのあり方から理解し、その周辺機器の規格を理解することで、取扱い方に関する注意ができるようにする。</p>	<p>(ア) コンピュータシステムのビジネス社会での利用方法について理解する。</p> <p>(イ) コンピュータで使用される、2進数・16進数について、2学年で学習した内容から応用に繋がり、より深い内容を理解する。</p> <p>(ウ) 文字表現について、現在のあり方を理解することで世界統一規格を学習する。</p> <p>(エ) マルチメディア表現を音声・画像・動画を例に、標本化・量子化・符号化を学習し、応用力を高める。</p> <p>(オ) コンピュータ内での情報の流れと扱い方に関する詳細を理解することで、各種表現方法を理解する。</p>	<p>知識・理解の達成度 定期考査により判断 授業内で行う小テストにより判断 ノートやレポート提出から判断</p> <p>関心・意欲 授業に向かう参加態度により判断</p>	14 時間
		<p>(ア) コンピュータの構成を理解する。</p> <p>(イ) CPUの働きと、内部構造について理解し今後のCPUのあり方を学習する。</p> <p>(ウ) 補助規則装置に関する、種類と動作原理を理解すると共に、使い分けができるように学習する。</p> <p>(エ) 周辺機器の規格に関する詳細を理解し、取扱いの注意等も含め適切な利用方法ができるように学習する。</p> <p>(オ) OSについて、原理とOSが稼動するまでの処理手順を学習し、BIOSのあり方を理解する。</p>	<p>思考判断 授業での発言により判断</p>	16 時間
三 学 期	<p>5. ネットワークとセキュリティー ネットワーク社会のあり方を理解し、通信規則を学習する。その中で情報の暗号化とセキュリティーの構築方法を学習する。</p> <p>6. 模擬試験の実施と解説 ITパスポートの過去問題を通して模擬試験と解説を行う。</p>	<p>(ア) ネットワーク社会の全体像を理解するとともに、詳細な標準規格を学習する。</p> <p>(イ) ネットワーク接続について、回線の種類等を理解し、現在の通信技術を身に付ける。</p> <p>(ウ) LAN構築の手順等を理解し、通信レイヤを学習する。</p> <p>(エ) webに関する詳細を学習し、通信とセキュリティーに関する基本を理解する。</p> <p>(オ) SSLの基本的考え方を基本から、情報の暗号化と構築方法までを学習する。</p>	<p>知識・理解の達成度 定期考査により判断 授業内で行う小テストにより判断 ノートやレポート提出から判断</p> <p>関心・意欲 授業に向かう参加態度により判断</p>	10 時間
		<p>(ア) ITパスポートの模擬試験と解説</p>	<p>思考判断 授業での発言により判断</p>	4 時間